

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



4月3日の自然と親しむ会は知明湖周辺をハイキング。サクラの木に留まるアトリも春を満喫しているよう。

Contents

- 第27回総会のご案内 P 2
- GEN なんでも勉強会参加者募集 P 2
- 蔚県陽眷鎮でプロジェクト開始 P 3
- 大同緑化協力 25 年の軌跡 P 6
- 黄土高原紀行（4） P 7

2021.5
199

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第27回総会のご案内

6月12日（土）、緑の地球ネットワーク第27回総会をおこないます。昨年同様、郵送とE-mailによる意見表明と、インターネットを介した遠隔会議をプラスして開催します。会員の皆さんには、総会に提案する文書を近日中に発送いたしますので、お読みになったうえでご意見を封筒の返信用はがき、またはe-mailにてお寄せいただくようお願いいたします。

Zoomによる遠隔会議をご希望のかたには招待メールをお送りしますので、緑の地球ネットワーク（gen@gen-tree.org）まで、表題を「総会参加」としてメールをお送りください。本文は書いても書かなくてもけっこうです。当日インターネットの接続が不安定になることも考えられますので、遠隔会議に

参加予定の方も郵送またはE-mailによる事前の意思表明をお願いいたします。

今回の総会の記念講演は、エストニアとオンラインでつなぎおこないます。観測機器やコンピュータ、インターネットの著しい進歩にともない、地理的にも時間的にも大きな現象を扱うマクロ生態学が盛んになってきました。さまざまなビッグデータを分析するなど、新しい切り口で環境問題や社会問題に貢献することが期待されるマクロ生態学を、国境を越えて研究している藤沼潤一さんが紹介してくれます。

また、今後の活動のあり方を考えようと、昨年からGENの若手メンバーが将来ワーキンググループを立ち上げ、議論を重ねています。今回の総会ではこのワーキンググループの中間報告も

おこないます。みなさまのご参加をお待ちしています。

【緑の地球ネットワーク第27回総会】

○日程：2021年6月12日（土）13時～16時40分

○会場：大阪産業創造館5階研修室C（大阪市中央区本町1-4-5 tel.06-6264-9911 大阪メトロ中央線・堺筋線「堺筋本町」1番出口より徒歩5分）

○記念講演：13時～14時30分『マクロ生態学の視点で自然共生を考える』

○講師：藤沼潤一（タルト大学（エストニア共和国）マクロ生態学研究室・GEN世話人）

○参加費：無料

○総会：14時50分～16時30分

GENなんでも勉強会

オンライン

グローバル目標

「SDGs」を考えよう

#1 理念、枠組み、歴史

SDGs（持続可能な開発目標）についての認知が広がるなか、原裕太さんを講師に招き、あらためて考えるオンライン勉強会をシリーズでおこないます。1回目はSDGsの理念等について学びます。

○日時：6月27日（日）13時30分～15時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：原裕太さん（GEN会員 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構 特任助教）

○参加費：無料

○お申込み・問合せ：6月23日（水）までに表題を「SDGs勉強会参加希望」としてGENまで（gen@gen-tree.org）メールをお送りください。GENホームページのイベント欄からもお申込みいただけます。後日、GENよりZoomのミーティングIDとパスワードをお知らせします。

イベント運営サイトPeatixでも募集予定です。同封のチラシにURLを記載しているのでそちらからお申込みください。



箱石海岸のマツ、順調に育っています

宮本 敏幸（GEN世話人）

2012年、2013年に京丹後市の箱石海岸でGENのメンバーも参加してマツの植樹をおこなった場所を先日訪問した宮本さんより、植えたマツはしっかり成長しているとの報告をいただきました。

4月12日、初夏を思わせる日差しのなか、9年ぶりに京丹後市箱石海岸を訪れた。ここは2012年3月24～25日（会報145号）、同年11月24～25日（会報149号）とマツの苗木を植林し、2013年11月9日（会報155号）、間引きと草取り作業にボランティア参加してきたところだ。

松は4mくらいの高さ、胸高直径は12～15cm、株間は50～60cmと大きく育っており、雪が舞い散る寒空のもとで穴を掘り、炭を入れ、植えたかいたと、感慨深いものがあった。ところどころ間伐された木もあり、予定どおり正月の松飾りになってくれたのでは、と思われた。

松露をさがそうと思ったが、地面は下草におおわれ、砂地が全く見えない。日本の降水量は平均で1600～1800mmといわれるが、砂地の当地ではさつま

いも、らっきょう、梨などの露地栽培とハウスでのメロン栽培が盛んで、大きな道路ぞいには栽培果樹の店頭直売所が多い。

私たちが植えたマツはそんなに多くはないが、冬の厳しい風雪に耐える防風林になり、地域の生活を守る一助になってくれることを期待して箱石をあとにした。



大人の身長を超えるほど育ったマツ

蔚県陽眷鎮で マツとアングスのプロジェクト開始

私たちの協力地・蔚県の属する河北省張家口市では新型コロナウイルスによる感染者は43人が確認されたものの、全員が治癒し、死者はいなかったそうです。蔚県では感染者もせず、普段通りの生活が維持されています。そのため、2021年度に計画していた植樹にさっそく取り組んでももらいました。陽眷鎮溝門口村では13.3haにアングス8800本を植え、陽眷鎮金泉村では13.3haにアブラマツ17556本、6.7haにアングス4422本を植えました。

陽眷鎮は蔚県の西北部の黄土丘陵に位置し、暑い時期に局地集中的に降る豪雨による水土流失が深刻で、段々畑と浸食谷など大同で見慣れた風景が広がっています。これらの樹木が育てば、水土を守り、砂漠化を防ぐことができ、農村の経済的自立のためにも役立ちます。

コロナ禍のため残念ながら日本から協力ツアーを派遣することはできませ

ん。その穴をいくらかでも埋めようと、地元の農村の人に加えて、蔚県志願者協会のメンバーが、おそろいの上着で参加してくれ、写真も送ってくれました。一日も早く、自分たちの目でその成果をたしかめたいものです。

溝門口村の植樹にはイオン環境財団、金泉村の植樹には外務省が推進し、日中友好会館が主催する日中植林・植樹国際連帯事業の助成を受けています。



あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かなGEN会員のあれこれをご紹介します。

大原 一晃 さん（京都府）



9年前に就職した後はろくなお手伝いもできておらず、そろそろ解雇通知が来

るかと思っていたところ何故か本稿の執筆依頼をいただきまして、誠に僥倖ながら拙筆をご覧いただいている次第です。

GENに入ったきっかけ

GENのことは知ったのは大学在学中のこと、当時は林学専攻で、授業中に先生が紹介されていたり、ネットで調べたことがきっかけだったように思います。①国際協力、②中国、③乾燥地緑化、というポイントに惹かれ、また、高見さんの本を拝読して大変感銘を受け、入会させていただいたところでした。中国には大学の授業で一度行ったことがあり、中国語も好きだったということ、国際協力活動に関心があったものの、どちらかというと熱帯湿潤な地域より乾燥地での緑化活動に興味を持ったことなどが、GENの活動へのご縁につながったのかと思い返しております。

GENでの活動

大学在学中、ワーキングツアーに一度参加させていただいたほか、3回くらい専門家派遣にも同行させていただきました。現地での植樹や交流はもちろん、黄土高原特有の浸食谷の景観や日向斜面／日陰斜面で明瞭に分かれる植生に大変感動したことをとても印象深く覚えています。

就職後は東北海岸線の植樹ツアーにも一度参加させていただきました。大学時代は、GENの顧問をされている小川眞先生にクロマツ海岸林の研究についてお世話になっていたこともあり、被災地の海岸林再生にわずかながら関わらせていただき大変ありがたく感じています。

GENの今後について

私自身が商工業支援の分野でわずかながら中国に関わった経験によるものもありますが、中国というと経済発展著しい沿海部の印象が強い人が多いのではないのでしょうか。そんな中、中国内陸の農村部での体験ができるGENの取組みは、逆に希少価値があるようにも感じております。「国際協力」というキーワードで中国という国がピーンと来る人はもはや少数派かもしれませんが、さまざまな専門家に参加いただく形で繋がってきた息の長い草の根協力、菌根菌を利用した緑化手法の成功等、他の国際NGOにはない面白さに出会えるのがGENの強みだと思います。

また、さまざまなキャリアをお持ちのシニア世代の会員さん達とお話できるのもGENの醍醐味ですので、より若い人にもGENとの出会いの場を増やしていくべく、YouTube等動画コンテンツの発信やTwitter等SNSの活用なども強化できれば面白いのではと感じています。

何かとままならない時勢ではありますが、今後も皆さまと共に、今できることを考えていければと存じますので、何卒よろしく願いいたします。



文化としてのサクラにまつわる話を聞く

関口 享子（GEN会員）

3月28日（日）、GEN なんでも勉強会オンライン「植物文化 サクラとくらし」を行い、前中久行さんにお話をいただきました。20名が参加しました。

毎年、桜の季節になると、私は電車の窓から桜を探して楽しめます。日頃見慣れている風景のあちこちにピンク色の花がのぞいているのを見ると、日本人は本当にこの花が好きなんだなあと思います。今年は、その季節に前中先生の桜の講義を聴きました。

私には意外だったのですが、桜は荒れ地に植えると良く育つそうです。隙間が多いと良く育つので、山火事後に桜が増えるのだとか。人間が荒らした環境＝人間の身近な環境に自生し、農民は桜が咲くと種まきをしました。種をまく時を知らせてくれる花だったんですね。桜の語源についても教えてくださいました。サクラのサは、サツキ（五月）サナエ（早苗）サオトメ（早乙女）のサで稲に結びつき、クラはイワクラ（磐座、岩倉）のクラで神霊が依り鎮まる座のこと、つまりサクラ＝稲穀の神霊の依る花の意味だそうです。

西行は「願はくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月のころ」と詠み、願い通りに桜の季節に亡くなりました。その死は都の貴族にも伝わり、彼らと興奮させたそうです。貴族たちの脳裏にはどのような西行の姿が浮かんでいたのでしょうか。私には、音もなくほ

ご協力ください
メールによる情報提供のためのアンケート

オンラインイベントの増加にともない、メールでイベント情報をお届けしたほうが便利かなことが増えています。そこで、メーリングリストを作成して『緑の地球』読者のみなさまにいち早く情報をお届けしたいと考えています。また、会報や総会資料の電子データ送付もおすすめです。インターネットで以下のページからみなさまのメールアドレス等お知らせください（GoogleForm を利用しています）。

ご協力をお願いいたします。
<https://forms.gle/gD9VgnsdLXxTr3c89>

の暗い中にある一本の満開の桜と、その幹にもたれて座り込む僧が浮かんできます。この世とあの世の境のような光景です。

現在日本に植えられている桜のほとんどはソメイヨシノです。ソメイヨシノは江戸末期に売り出されました。歴



春の訪れを感じに、知明湖ハイキング

太田 房子（GEN世話人）

4月3日（土）、GEN 自然と親しむ会前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑮春の知明湖周辺ハイキングをおこないました。15名が参加しました。

そもそも一庫ダムや数年前に行った妙見山一帯はエドヒガンの群生地として有名で、今回もそのつもりだったが時期が遅く、ほとんど散っていた。

4月3日、一庫ダムでバスを降りて見回すとエドヒガンの花はほとんど落ちてしまったあとだったが、周囲はソメイヨシノが盛りだった。一行は前中先生の説明を聞きながら知明湖の周回路をゆっくり巡った。歩いている人はほとんどいない。私たちで知明湖独占状態。最初に目についたのは大きな真っ白なイチゴの花、先生はクサイチゴかな、バライチゴかなとのこと。道々たくさん生えていた。

ここには昔からの自然と、ダム湖建設で造園・植栽された部分があって両方を観察することができた。落葉樹はいっせいに芽吹き、足元にはイヌフグリ、ヒメオドリコソウ、スミレ、ハタザオ等々の野草が花盛りだ。お弁当を食べた休憩所では、ソメイヨシノの枝にきれいな鳥が数羽とまっていて、鳥好きな人たちによるとアトリかな。

ソメイヨシノは人間につくられたクローンだから、どれも同じと聞いているが、先生によるとそれでも多様性があるそうで、興味深かった。なるほど、あれもソメイヨシノ、これも、と実際に見てみると少しづつ違いがあるような気がしてきた。

やがて、ダム湖を離れて、造成され

史的には最近つくられた品種なんですね。クローンなので、同じ時に同じ色で咲くそうです。ソメイヨシノの前は桜という圧倒的にヤマザクラのことを指しているそうです。

前中先生は中尾佐助先生の照葉樹林文化論の影響を強く受けているそうで、今回の講義で中尾先生のお名前が出てきました。私も大学生の時、講義で聴いた懐かしいお名前です。次の機会をお願いできるのでしたら、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

た住宅地へと登っていく。途中ではかつて農村だった名残がみられた。アオキやシャガ、ツバキなどが繁っていた。住宅地の公園には、また、たくさんのサクラが植栽されていて、はるか下に知明湖を見下ろし見事な景色だ。説明を聞くほど、目の前のが何ザクラか、わからなくなってきた。

ゆったりとした、密無しハイキングはこの時期とてもぜいたくをした満ち足りた気分で行った。



関東フランチ オンライン月例会

GEN 関東フランチオンライン月例会は、毎月第4土曜日におこなわれています。ウェブ会議システム Zoom を利用しますので、どこからでも、どなたでもご参加いただけます。

月例会の案内は関東フランチの（ア）



牡丹の歴史を学ぶ

田中 孝幸（伝統園芸研究会 会長）

4月10日（土）、GEN なんでも勉強会オンライン「漢方薬の歴史と薬用牡丹」をおこないました。27名が参加しました。

4月10日に行われた勉強会に参加しました。講師の久保輝幸先生からは、伝統園芸研究会（http://hort.club/traditional_horticulture/index.html）でも園芸の研究者が知らなかった中国や日本の園芸史、本草について教えていただいています。その中で久保先生に教えていただいたことも含めて感想を書きます。

寛永（1624～1645年）のツバキブーム以降、江戸時代に日本では独自の花卉園芸が発達し、花卉園芸のそれほど盛んでなかった中国より優れていたことが明治時代に世界に知られます。しかし、それ以前は、ボタン（牡丹）、キク（菊）、ウメ（梅）などが一度中国で品種分化を起こして日本に導入され、宮廷でもてはやされていました。このように、江戸時代に完成の域に達した日本の文化の多くと同様に花卉園芸も起原は中国にあったと改めて認識しました。

（ア）メーリングリストから発信されますので、興味をお持ちの方はメーリングリストへの登録をお願いいたします。登録希望の方は関東フランチの上田信さん（ueda@rikkyo.ac.jp）までご連絡ください。

【5月度月例会】
○日時：5月22日（土）15時～
○話題提供：上田信さん（立教大学文学部教授）

関東フランチが長らく関わってきた西伊豆での活動についてお話しします。松崎町・南伊豆町にも視野を広げ、より広域の「西伊豆」というまとまりで活動を模索しています。

【6月度月例会】
○日時：6月26日（土）15時～
○話題提供：藤原國雄さん（GEN顧問）
乾燥地域での緑化について、藤原國雄さんにやっていいこと、やってはいけないこと、などの観点からお話しさせていただきます。

ボタンの主要な野生種「紫斑牡丹」は中国西北部の山岳地帯に分布しています。発見されたのは唐時代とされています。ところが、それに先立つ漢代の薬物書には牡丹の記載がすでにみられるということから話が始まります。ボタンは、唐代に中国で品種分化がなされた植物で、日本にも古くから導入され、重要な園芸植物になっています。

しかし、久保先生によると中国でそれ以前に牡丹とされていたものにはヤブコウジ科の薬用植物を指すことがあり、現在生薬として用いている牡丹は園芸植物のボタンの根で、本来の生薬としての牡丹はヤブコウジで、ヤブコウジは「今のボタン」が牡丹と言われるようになると薬としての価値がある



ことから十両（ヤブコウジ）に変わり、同じヤブコウジ科のマンリョウ（万両）だけでなく、江戸時代に高価で取引されたカラタチバナも別名百両と呼ばれるようになったということでした。ただし、質疑応答で話題になった一両（アリドウシ）はアカネ科、千両（センリョウ）はセンリョウ科の植物です。日本でも牡丹の名前については、古くからボタンを表すこともヤブコウジ科の植物を表すこともあったと指摘されました。

薬用牡丹の歴史を例に、中国の漢方薬の歴史や、園芸植物のボタンについて久保先生の幅広い知識、特に古代中国の園芸、本草関係の知識に感服しました。ありがとうございました。

オンライン交流会 「王萍さんと話そう」をおこないました

3月26日、オンライン交流会「王萍さんと話そう」をおこない、15名が参加しました。初めての試みでしたが、参加者から「中国の現在の話が聞けてよかった」との声が寄せられました。今回は小寺範生さんから寄せられた感想をご紹介します。

大同で長年ボランティア通訳を務めていただいた王萍さんとのオンライン交流会が、3月26日夕方から開かれました。東川事務局長の司会で、まず参加者20人がそれぞれ自己紹介と尋ねたいことなどを話しました。

ようやく王萍さんが画面に登場、接続環境のせいかな、画面がやや暗く、不鮮明なところもありましたが、以前に変わらぬ明るい笑顔と、やさしい語り口で近況を話してくださいました。

王萍さんは大同第4病院の副院長を務めあげ、昨年1月に60歳の管理職定年を迎えられましたが、例の「新型コロナウイルス」への備えなどのため9月まで続けて勤務、11月に生まれただけのお孫さんの世話のため、天津に移られました。このとき大同からご自分で車を運転して来られたそう。

GENのメンバーは皆いろいろお世話

になりましたが、活動の中心が河北省へ移って以後はツアーとの交流はなくなり、ただ高見副代表たちとの接触だけは続いていたそうです。

この後参加者からの質問事項を東川さんが取り次いでくれました。最初は例のコロナウィルスのことですが、大同ではほとんど問題にならなかったこと、また10年ぶりとかいう黄砂についても、昔の大同を知る人にとって今の天津では全く影響ないとのことでした。

中国の定年者世代は孫の世話をするのが普通かという質問については、王萍さんの周りではそれほどでもないとのことでした。また福祉制度やその他について詳しく聞きたい人もあったようですが、時間があっという間に過ぎ、お開きになりました。

最後に王萍さんにお礼を申し上げます。

大同緑化協力 25 年の軌跡

降れば降ったで雨は問題を起こす

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で25回目です。（高見邦雄）

「靠着山呀，没柴烧。十箇年頭，九年旱一年涝…」（山は近くにあるけれど、煮炊きに使う柴はなし。十の年を重ねれば九年は旱で一年は大水…）。大同のことを話すとき、必ずといっていいほどの民謡を紹介しす。陽高県の「高山高」の2番。30年近く通いつづけた私の実感でもあります。

旱魃のことはよく話しますが、大水とはなんでしょう。年間降水量の平均は400mmほどで、その3分の2から4分の3が6月半ばからの3か月に集中します。狭い範囲に短時間、猛烈に降ることがあり、私も1時間70mmの雨を体験したことがあります。それが水土流失をもたらすわけですね。

大同での私の活動に、とても役立った本があります。『中国生活誌～黄土高原の衣食住』（大修館書店、1984年）で、羅漾明さんと竹内実さんの対談です。大同で活動することになって、知人に勧められました。羅漾明さんは1920年、朔県の生まれ、現在の朔州市朔城区で、大同の西隣りです。小学校に入る前に北京に移り、その後、京大に留学され、故郷に帰ることはめったになかったのに、風俗習慣なども詳しく話されています。それを私が受け売りすると、「どうしてそんなことまで知っているんだ!」といって、みんな驚き、話題が広がりました。羅漾明さんの記憶の正しさをそんな形で検証したんです。

最初は信じられなかったこともあります。水のあるときは河で、ないときは道になるところがあるでしょ。そこを歩いていると、「…黄土色の水がおしよせてきた。ちょうど二、三階だての建物が前進してくるみたいにしてやってくる。われわれが立っているところのぎりぎりいっぱいまできたんです」と、命からがら逃げたことを語っています。

「……平地はまったくいい天気なのに、山奥にそういう雨が降ると河が急にはらんする。むかしは年に何回かこういう

ことがあって、子どものときよく城外の河にそれを見にいったんですよ。中に立ち木やら家畜やら家財道具、ときには人間の死体も流れてくるんです」「……雹の大きいやつは直径4、5センチくらいあって、牛が死んだという話を聞いたことがあります。よく瓦を割るんですよ」。広霊県の邵家庄郷を訪ねたとき、雨は降ってないのに、いろんなゴミをぐいぐい押しながら水が突然流れてきてびっくりしたことがあります。

私たちの重点プロジェクト、大同県聚楽郷の実験林場カササギの森。中央部に谷があり、北から南に平素はきれいな水が流れています。あそこで2003年7月25日、土石流が発生し、少し下流の聚楽村に流れ込んで、4人の犠牲者をだしま

した。その直後に現場をみましたけど、直径30cm以上もあるポプラが倒され、谷底にずいぶん繁っていたヤナギなんかもみな流されました。立ち木には高さ2.5mほどのところにゴミがひかかっていましたし、技術者の話では深いところでは4mを超えたといいます。それだったら、2、3階建ての建物といってもおかしくないでしょう。

雹も降ったといいます。管理棟の付近では直径2cmほどのものが短時間に25cmも積もったそう。敷地内を北に歩いていくと、地面に3～5cmのくぼみが無数にでき、北に行くほど大きくなる。これほどのものを残すとなると、なるほど頭にもあたれば大ケガをするでしょう。



カササギの森の谷。当時に比べずっと緑が濃くなった

17年目の春に思う ―閑上より感謝をこめて―

大橋 信彦（ゆりりん愛護会会長）

GENにご協力いただいている団体にメッセージを寄せていただくコーナー、今回は名取市閑上で海岸林再生活動をおこなっているゆりりん愛護会です。

今年3月、宮城県から『みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会』を設立する旨の文書が届きました。趣意書には、「東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の復旧は、震災から10年を迎える今年度末ですべての植栽が完了することとなりました。（中略）植栽された苗木が成長し、防災林としての機能を十分発揮するには長い年月が必要であり、今後も適切な保育管理を行う必要があります。そのため宮城県では、“みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり”に



主体的に関わり復興を支援していただいた民間団体のみなさまに、海岸林の保護管理と地域振興の役割を担う新たなネットワーク『みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会』の趣旨にご賛同いただき、その一員として、これからの活動に共に取り組みんでいただきたい」と記してありました。ゆりりん愛護会はこの趣旨に賛同し、この度、会員となることにしました。

ゆりりん愛護会は、名取市閑上地区の海岸林焼失地を環境学習林として再生する宮城県のモデル事業推進団体として平成16年に結成されました。以来、会は行政、市内小中学校、地域住民と連携して焼失地への植樹と周辺環境の整備に取り組んできました。平成23年3月、東日本大震災は予告なしに襲来し、ゆりりんの森を破壊しました。しかし、私たちは悲しみの時を超え行動を開始しました。「白砂青松再生の会（小川眞代表）」の協力の下、被災した海岸で生き残っ（ア）

黄土高原紀行<4>

一、雲岡石窟（3）

さて、雲岡石窟の駐車場でバスを降りたあと、両側に立ち並ぶ土産物店のあいだを足早に通りぬけ、石仏寺の門前に。中国の有名観光地では、駐車場から目的地までのあいだは必ず土産物屋の前を通る決まり（?）になっていて、何か買わせようとする。その手に乗るか！

階段を上って「石仏寺」の門額が掛かる山門をくぐると、鐘楼と天王殿の後ろが中庭をはさんで、東・西の客殿。正面に断崖を背にした四層楼。いまは東の客殿が文物保管所、西側の客殿が観光サービス部、つまり土産物店（ショバ代の上乗せがあるので貴いようだ）になっている。管理・運営上の一切の権限は雲岡石窟院という組織がにぎっていて、スタッフの仕事は修復・研究と訪問見学者の受け入れの二つに分かれる。スタッフは文字どおり服務員で、仏寺らしく読経・坐

（ア）たマツの子孫を京都府緑化センターで育て、およそ5000本の幼苗をふるさと名取の地に里帰りさせました。それら閑上由来のマツ苗はその後、宮城県と協定を結んだ仙台市や岩沼市の植栽地に植えられ、健やかに成長しています。

ゆりりん愛護会が行ってきた海岸での植樹や整備活動は、多くの人たちの支援があつてのことでした。なかでも、GENからのご支援は、私たちの活動をしっかりと支えてくれました。平成25年5月にはじまる植栽地支援は毎年恒例の行事として行われ、その間に植えられたマツ苗は、仙台市荒浜、岩沼市寺島の両海岸を合わせて1500本を超えるまでになりました。また、一方で、GENのみなさまの中国での活動は多くの事を教えてくれ、私たちに勇氣と想像力を与えてくれました。そしてまた、この数年にわたって贈られた樹木費用も、ゆりりん活動の潤滑油としての働きを充分に果たしてくれました。心より深く感謝申し上げます。

会の結成から17年、この春ゆりりん愛護会は『みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会』の一員として新たなスタートを切りましたが、皆様と植えたマツ苗の成長をしっかりと見守っていきたいと気持ちを新たにしています。

谷口 義介（GEN会員）

禪・説法など悠長なことをしている人はいない。そもそも石仏寺とはいっても、市内の上華厳寺に本部がある大同市仏教協会にも不参加。寺院らしい雰囲気があったく感じられないのは当然か。

それはともかく、中庭から見上げると、正面に四層からなる木造の楼閣が三棟つづきで並んでいる。これらは明末～清初（17世紀）に付設されたもので、その内側に、右（東）から数えて第5・6・7窟が掘られているわけだ。

たまたまコネがあったので、雲岡石窟院の副院長のご配慮により、現在修復中のため見学禁止の第5窟に入らせてもらう。数名の研究員が何やら作業中だ。ヘタな中国語で「辛苦了!」（お疲れさま）と声をかける。

窟内の広さは、東西21×南北11メートル。洞内いっぱいには高さ15メートルの釈迦如来の坐像。湿気をおびて黒光りしている。のしかかるような存在感。頭部がドーム天井まで届きそうだ。その左右に拳手形の脇侍立仏。四壁にはぎっしりと仏龕（仏像を収めるための彫り込み）がうがたれ、その中に菩薩と小仏たち。四壁の下段には釈迦の生涯を陽刻した仏伝図。天井には飛天が舞う。北壁には供養者の行列。また本尊仏と後壁のあいだにはトンネルが掘られ、本尊のまわりをめぐる繞道の役目を果たしている。第5窟は雲岡前期のいわゆる曇曜五窟（460年より造営開始）と同じ大仏窟に入るが、それらとは違って窟内が広く、石窟全体に諸仏を配するなど雲岡中期の仏殿窟への傾向を示す。実年代でいうと、北魏の第5代献文帝（465～471在位）が亡父の第4代文成帝（452～465在位）のために造営した、とも。

次に見学した第6窟は、広さ13メートル四方で、高さ15メートル。中央に一辺7メートルの方形の塔柱を彫り残す。いところの塔廟窟（方柱窟）である。中心柱と周壁は上・下の二段に分けられており、上段は仏三尊像を配列して天上世界をあらわし、下段は仏伝図によって地上世界を表現している。中心柱と周壁のあいだに回廊がめぐらされ、参拝者が右回りしながら、仏菩薩に礼拝し、かつ釈

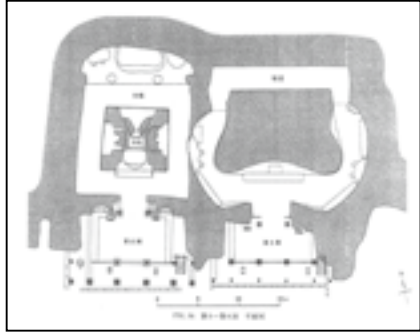


迦の誕生から入滅までの物語を拝観するようになっている。仏像の衣装が漢族式になっているのは、第6代孝文帝（471～499在位）の漢文化好みを反映するとか。第6窟の造営を、もちろん孝文帝が洛陽に遷都まえの480年代後半とみる説もある。

そもそも塔廟窟は、紀元前2世紀ごろインドで出現したチャイティア窟の伝統を受け継いだもの。1995年11月、甘肅省敦煌の莫高窟を見学したとき、いくつか類例を見た。北魏時代の第254窟などを典型とし、北朝期における主要な窟形式をなすが、新疆ウイグル自治区のキジル石窟をへて敦煌に伝えられたとみられている。敦煌からさらに甘肅省の涼州を経由して、山西省大同の雲岡石窟に取り入れられたのだろう。

今回、雲岡で最初に見た第5窟と第6窟は二つで一組となる双窟（一对窟）で、孝文帝の勅願により造られたとされる。しかし、大仏窟と塔廟窟という形態上の違いがあり、築造年代にもズレがある。両者をペアとみるのは無理なようだ。それはともかく、雲岡石窟の調査に参加された水野清一博士は、こう書いている。

「大仏をめぐり、方柱をめぐるやうにできてゐる第五、第六洞はこれをめぐることによって仏のこゑをきき、すがたを見、宗教的な恍惚境に没入して行く北魏人のありさまをしのばしめるのである。」（『雲岡石窟とその時代』富山房、120ページ）



雲岡石窟第5・6窟平面図（『雲岡石窟 中国文化史蹟』世界文化社 1976年）

情報ひろば いっしょなかたち

*今号では新型コロナウイルス感染拡大の影響によりお知らせできるイベント案内はありません。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。
なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

小夏とたまねぎ いかがですか

今年もおいしい小夏はいかがですか。低農薬の玉葱もおすすめです。ぜひお試しください。

◎土佐小夏

A	5kg	4,800 円
B	3kg	3,000 円
C	家庭用 5kg	3,800 円

◎おいしい玉葱（低農薬、有機肥料）

A	5kg	2,500 円
B	3kg	1,600 円

※送料別途。関東 970 円 関西 880 円（20kg まで）

※売り上げの一部を GEN に寄付していただいています。ご注文の際は『GEN の紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内 203 tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp URL http://tanakanouen.com/

いまますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会費	12,000 円
家族会費（同居の家族2人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化基金の 20% は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

* * * * *

【GEN への寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定 NPO 法人です（期限は 2024 年 4 月 8 日まで）。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。